

Narashino International Association



NIA SQUARE ニュウエイ

Quarterly News

第 83 号

2008 年 9 月 1 日
習志野市国際交流協会

“歓迎 姉妹都市タスカルーサ市青少年訪問団”

- ◆事務局 青少年訪問団来市
- ◆姉妹都市部会 交換高校生からの感想文
- ◆交流部会 キラット・サンバに参加
- ◆通訳部会 青少年訪問団に同行して

- ◆広報部会 青少年訪問団に随行して
- ◆Let's チャレンジ ザ・英文クロスワードパズル
- 読者の広場
- 編集後記

Welcome

タスカルーサ市青少年訪問団来市

事務局長 岡本 孝夫

今年度のタスカルーサ市青少年訪問団は、1986年の姉妹都市提携以来、第11回目の受け入れとなりました。

今回は、お馴染みのタスカルーサ姉妹都市委員会リサ・キーズ専務理事をはじめ、2名の引率者とセントラル高校2名、ノースリッジ高校5名、ポール・W・ブライアント高校5名、併せて15名の方が習志野市を訪れました。

6月12日から23日まで滞在し、この間に NIA や習志野高校主催の訪問団歓迎会、青少年スポーツ交流会、皇居訪問等の東京見物、富士吉田青年の家における宿泊研修など各種のプログラムを楽しみました。またホストファミリーの方々をはじめ、多くの皆様のご支援ごと協力により、青少年訪問団との相互理解と友好親善が図られました。

タスカルーサ市青少年訪問団歓迎会



青少年訪問団のスケジュール

タスカルーサ市青少年訪問団は、12日間の滞在中に教育、文化、スポーツ青年交流及び自然探訪のため市内外の各施設・東京等を訪れました。また休日には、ホームステー先のホストファミリーの方々と楽しい時を過ごしました。

日付	日程
12日(木)	訪問団成田空港着 ホストファミリー対面式(会場:市役所)
13日(金)	表敬訪問(市長) 市内施設見学(リサイクルプラザ→谷津干潟自然観察センター→ららぽーと)
14日(土)	青少年部会スポーツ交流(会場:市役所前体育館) 歓迎会(会場:商工会議所大会議室)
15日(日)	ホストファミリーと過ごす
16日(月)	東京観光 Aコース:皇居→銀座→お台場→習志野 Bコース:皇居→ジブリの森→習志野
17日(火)	習志野高校見学 富士吉田宿泊研修
18日(水)	見学先:富士山五合目、忍野八海
19日(木)	↓ 見学先:オルゴール館、山中湖周遊
20日(金)	相撲部屋(阿武松部屋)見学 消防庁舎見学 中学校訪問
21日(土)	茶道体験(会場:サンロード5階茶室) 解散後ホストファミリーと過ごす
22日(日)	ホストファミリーと過ごす
23日(月)	指導者ミーティング(会場:市役所) 送別式/ホストファミリー見送り(会場:市役所前広場)

問1 日本の国連分担金は、世界で第一位である。

○ ホストファミリー対面式

らいし さいしょ たいけん
来市した最初の体験
は、お世話になるホス
トファミリーとの対
面。ドキドキする一瞬、
笑顔で迎えてくれたホ
ストファミリーに緊張
感もほぐれ、それぞれのホームステー先に向かいました。



○ 相撲部屋訪問

おうのまつ べ や おとす
阿武松部屋を訪ね、
はじめてみるエキサイ
ティングな相撲の稽古
を興味深げに見物、実
際にぶつかり稽古を体
験した団員もいました。



○ 青少年訪問団歓迎会



ならし の し きょうさい
習志野市 & NIA 共催
かんけいかい しみん
による歓迎会が、市民
とう めい さんか 等 105名の参加により
もよお 催され、市長等の歓迎
し ちよとう かんげい
スピーチの後、バイオ
あと とう かくだん
リン・チェロ等の楽団
ひととき

えんそう あわ おと
演奏に併せダンスを踊ったり、なごやかな一時となりました。

○ 青少年スポーツ交流

し やくしままたいくかん
市役所前体育館において、青少年部会主催のスポーツ
こうりゅうかい おなな
交流会が行われました。青少年等 33名が参加し、バス
たいこうせん たの せいじょうねんはうもんだん
ケットとフットサルの対抗戦を楽しみ、青少年訪問団との
ゆうじょう あたた 友情を温めることができました。

○ 東京観光

こうきょはうもん だい は けんぶつ にほん れきし でんとう
皇居訪問やお台場見物をし、日本の歴史と伝統にふれ、
きんだいたき と し けんかく せかい ていきょう
近代的な都市を見学しました。世界にアニメを提供する
あこが みたか もり ひじかん おとす
憧れの三鷹の森ジブリの美術館も訪れました。

○ 習志野高校見学、歓迎会

すいそうかく ふ えん ぎ えんそう かんるい ほうもんだんいん
吹奏楽部の演技・演奏に感涙する訪問団員もおりまし
た。書道授業への参加、文化・スポーツの活動風景も見
かく さん か に ほん こうこうせいのかつ たの
学・参加し、日本の高校生活を楽しみました。

○ 富士吉田宿泊研修

ふ じ よし だ し くはくけんしゅ
富士吉田青年の家での宿泊研修は、交流を深めるため8名の習志野高校生も参加しました。富士山五合目は、この時期には珍しく快晴に恵まれ、残雪と見渡す限りの富士山の景観は、参加者には生涯記憶されることでしょう。



○ 茶道体験

ちゅうしつ まきしん まっちゃん
伝統的な様式にのっとり、茶室において客人に抹茶を
ふるまい、人との出会いに心を尽くす茶道の精神文化は、
おお だんいん ふか かんどう あた
多くの団員に深い感動を与えました。

○ 青少年訪問団送別会



し やくしょまえ ひろは
市役所前の広場での
そうべつかい しちう
送別会は、市長よりお
せわ 世話になったホスト
ファミリーへの感謝状
そうてい ほうもんだん
贈呈、訪問団からのお
れい はなたは
礼の花束、そしてハグ
むね だい かいせじょうねん
と涙の別れの後に、多くの思い出を胸に、第11回青少年
訪問団は帰国しました。

エピソード

結婚式に駆けつけてくれたホストファミリー

ねん だい かいし まい と し せいじょうねんはうもんだん
1991年に、第2回姉妹都市青少年訪問団としてタスカ
し は けん み うら か よ こ
ルーサ市に派遣された三浦嘉代子さん。

ホストファミリーと
してお世話になった
ディック&ナンシー・
ボルシック夫妻に、将
らいけっこん から
来結婚するときは必ず
ふたり しょうたい やくそく
二人を招待すると約束



がつ にち けっこんしき は ひ ふ さい さん
しました。6月1日の結婚式の晴れの日に、ご夫妻が参
れつ しきふく けっこんしき は ひ ふ さい さん
列し祝福してくれました。その際夫妻が習志野市長を表
けいはうもん 敬訪問しました。

あら き し ちよう けっこんしき しきせき
荒木市長も「結婚式に出席するため、はるばるアメリカから来てくださるなんて素晴らしいことです。姉妹都市へのホームステイ派遣がきっかけとなり、長年の交流があったからこそです。これからも家族ぐるみのお付き合いを続けて頂きたい」と歓迎しました。

習志野市へのタスカルーサ交換高校生の感想文

2008年6月11日～23日

Reflections of the Tuscaloosa Student Exchange to Narashino, Japan June 11-23, 2008

姉妹都市交流部会長 今井 洋子



Dear friends in Narashino.

Thank you again so very much for our wonderful and extraordinary visit to Narashino last month. We are still relishing so many great experiences in Japan. Attached are the "reflections" of each student; I hope you will enjoy each and every one, and share them with Mayor Araki, the Narashino Board of Education, and of course, all host families.

We are deeply appreciative of you for your hard work coordinating our beautiful visit. I hope you have had a chance to catch up on your rest the past couple of weeks!

You will fondly be in our hearts and thoughts forever.

Your friend (and all friends in Tuscaloosa),
Lisa Keyes, Executive director of Tuscaloosa Sister Cities Commission,



Carlos Estrada

Going to Japan was an extraordinary experience. This was a once-in-a-lifetime moment which I will cherish forever. I learned more than I ever expected to on this trip: from Japan's history with the United States, to properly drinking tea, to a little dance. I will miss everything about Japan. I hope to one day go back to Japan and see every friend that I made. Domo Arigatoo Gazaimasu for everything.

A reflection of the Tea Ceremony: The tea ceremony was spectacular down to the smallest of detail. I'm so happy that I could have participated in such a wonderful event. Learning the traditional Japanese ways, was very important to everyone on the trip. I would participate in another tea ceremony in a heartbeat, the tea was delicious, the sweets were delicious, and overall it was very memorable.

みなさま

先月の素晴らしい驚嘆すべき習志野訪問に対して再度厚くお礼申し上げます。我々は日本での本当に沢山の素敵な経験を今も味わっています。このたび添付いたしますのは、生徒各々の「感想文」です。これらの感想文のそれぞれすべてを楽しめ、荒木市長、習志野市教育委員会、そして、もちろんホストファミリーの皆様にお読みいただけましたら幸いです。

我々の楽しい訪問を企画実施くださったという大変なお骨折りに深く感謝しております。皆様方にはこの数週間ゆっくり休息をとられるようお願ひいたします。

皆様方は我々の心と思いの中に永遠に生き続けます。

皆様方の友人リサ・キーズ（タスカルーサ姉妹都市委員会 専務理事）より
(そしてタスカルーサのすべての友人より)

【カルロス・エストラーダ】

日本への旅行は並外れた経験でした。これは永遠に心の中に大切にするであろう、人生にただ一度の瞬間でした。私はこの旅行で、今までに期待した以上の多くのことを学びました。アメリカ合衆国にかんする日本の歴史から、礼儀作法にのっとってお茶を飲むこと、少しばかりダンスをすることなどを。私は日本に関するあらゆるものを感じかしき思い出すことでしょう。私はいつか日本に戻って、私がつくった友達みんなに会いたいと思います。（すべてのことについて、どうもありがとうございます。）

お茶会の感想：お茶会では小さな細部へのこだわりに驚嘆しました。私はこのような素晴らしいイベントに参加することができて大変幸せです。伝統的な日本の流儀を学ぶことは、訪問団一同にとって非常に重要でした。私はときどきしながら、またお茶会に参加したいものです。お茶は美味しい、お菓子も美味しい、全体的に非常に印象深かったです。

問2 日本のリサイクル率は、世界で第一位である。



Lauren Fourt

The Sister Cities Japan Exchange was truly an experience. It allowed me to have firsthand experiences of a culture unlike my own. The best part of the exchange was being able to experience things I wouldn't find in the United States. The tea ceremony, the food, the mannerisms, and Mt. Fuji are all terrific examples of things only Japan can offer, and it was amazing to experience them like the Japanese would. I also loved communicating with the Japanese. Even when you didn't know much of the language, the Japanese were simply happy to see you try to use as much Japanese as possible. The Japan exchange program really opened my eyes to how people's lives differ because of the culture. Japan is an incredible, beautiful country, and I hope to return one day.



Jodi Lee

From the misted reaches of Mount Fuji, to the frenzied swarm of activity of Tokyo, Japan is a beautiful and complex country. Narashino was a wonderful city, packed with the warmest hearts and most welcoming smiles. Every facet of Japanese culture amazed and wow'd me. The sweeping, quiet elegance of Sado stunned me with its beautiful simplistic complexity. The feel of a Yukata - the bright patterns, the dazzling Obi. And then the kindness, when this absolutely stunning object was made into a heart-felt gift. Just absolutely touching. Spending time at the Mount Fuji retreat, barbecuing with the Japanese students, playing games, laughing with all the other exchange students. I'll never forget the ricocheting glow of the bottle rockets, or the tiny, twirling ember that sparked in a small, delicate, speckled halo - and the laughter and delight (and the close calls!) as everyone stood in a haze of light and smoke - and the feeling of togetherness.

Speaking with Japanese students, learning the surprising similarities and differences, but experiencing the overall closeness of human understanding - was priceless. It made me realize that any people can be brought together by curiosity, open minds - and any similarity, or even subtle difference - can become a

【ローレン・フォート】

日本の姉妹都市交流は本当に素晴らしい体験でした。私自身のとは異なる文化をじかに体験することができました。アメリカ合衆国ではおそらく知り得ないような物事を体験することができたのは、この交流の重要な側面でした。お茶会、食べ物、型にはまった作法、富士山、これらすべてが日本だけが提供することのできる素晴らしい事例ですし、日本人と同じようにこれらを体験できたのは素晴らしいことでした。私はまた日本の皆さんと接するのが楽しかったです。たとえ語学について多くのことを知らなくても、できるだけ多くの日本語を使おうと努力するのを見るだけで、日本の皆さんはとても幸せのようでした。文化の違いによっていかに人々の生き方が異なるか、この交換プログラムには本当に目を開かされました。日本は信じがたい国です、また、美しい国です。私はいつか日本に戻りたいと思います。

【ジョディ・リー】

霧に包まれた広大な富士山訪問から、多くの人々が熱狂的に活動する東京に至るまで、日本は美しくそして複雑な国です。習志野は温かい心と最高の歓迎の笑顔がつまつた素晴らしい街でした。日本文化のあらゆる面に私は驚きをみました。茶道の沈黙の上品な美しさは、美しい単純化された複雑さと相俟って、私を圧倒しました。浴衣の肌触り、鮮やかな図案、眼のくらむような帯。そして、この眼を見張るような驚愕の浴衣が、私たちに對するお心のこもった贈り物になったというご親切。本当に感動でした。都会を離れた富士山で過ごした一時、日本の生徒の皆さんとバーベキューをし、ゲームをし、タスカルーサからの仲間の生徒と笑顔を交わしました。私は決して忘れないでしょう、ボトル型のロケット花火が飛び跳ねながら大きくなり、あるいは小さくなる回る残り火が火花を放ち、小さく、繊細な、ぼつぼつとした円光になるのを。そして笑いと喜び（そして終わりの掛け声！）、みんなで光と煙のもやの中に立ち、一体感を持ったことを。

日本の生徒達とも話し、驚くべき共通点と相違点を学びましたが、全体にわたる深い人間理解を経験することは極めて貴重なことでした。人は誰でも好奇心と広い心によって一体感を持つことができるし、共通点あるいは微妙な違いでさえも、みんなを結びつける文化の懸け橋となることに私は気付きました。

cultural bridge to link them together. And sometimes, it is our differences that truly make the connection. It was simply a stunning, wonderful, once-in-a-lifetime opportunity that I will never forget.

Thank you so much!



Brianna Miller

Japan was more than I ever imagined it to be. I learned so much within the little time we spent there. I feel much closer to my fellow students, as well as the Japanese culture. I find myself with eyes wide open to the world and things that are different between the United States and Japan. Spending time in Japan was a life changing experience and I would not trade one moment for anything in the world. The people in Japan were so generous and kind, and I wish that our country could share the same respect and kindness that Japan brings to its visitors. I hope to return to Japan one day very soon. It was a wonderful experience that I will never forget.



Tim Brown

I had a very good time in the city of Narashino, Japan. I enjoyed the people, the culture, the activity, and the food. My host family was really nice to me. They made me feel like a part of the family. All the activities that we participated in were very interesting, and impacted on my life in a lot of positive ways. I participated in just about all the activities which made it even more exciting. Being in the sumo stable was the most interesting part of the trip. Being an athlete I never knew how complicated some things were when they looked so easy. I wish to visit Japan again someday. I hope everyone will remember me. I even plan on looking at colleges in Japan because I want to be an Electrical Engineer. Japan would be the perfect place for that. I also would like to thank everyone who made this possible for me and my friends. I was a once in a lifetime experience.

今回は、来訪者15名中、6名の感想文を掲載しましたが、まだ、掲載されない方々の感想文は、順次、習志野市国際交流協会ホームページ等でご紹介いたします。ご期待ください。

そして、本当の人間関係をつくるのは、時には、我々の相違点であるということにも気付きました。本当に感動させられる、素晴らしい、決して忘ることのない人生に一度の機会でした。

ありがとうございました！

【フリアナ・ミラー】

日本は私がかつて想像した以上でした。私はそこで過ごしたほんのわずかな時間に非常に多くを学びました。私は仲間の学生たちと同じ位、日本の文化にも親しくなったと感じています。私はアメリカ合衆国と日本との間で異なる物事、そして世界に向けて目が開かれたを感じています。日本で時を過ごすことは人生を変える経験でしたし、この世界のどんなものとも一瞬たりとも交換する気はありません。日本の人々はとても寛大で親切で、日本が訪問者にもたらすのと同じ尊敬の念と親切さを、私たちの国も持つことができることを願います。私はいつか非常に近いうちに日本に戻りたいと思います。私は決して忘ることのない素晴らしい体験でした。

【ティム・ブラウン】

私は日本の習志野市で非常に素晴らしい時間を過ごしました。人々、文化、活動、食べ物をエンジョイしました。ホストファミリーには本当に親切にして頂きました。彼らはまるで家族の一員のように感じさせてくれました。私の参加した活動はいずれも興味深く、私の人生に多くの前向きなインパクトを与えました。私はすべての活動をさらにエキサイティングなものにしようと思ひ参加しました。この旅の中で相撲部屋訪問は最も興味深い一部でした。私は運動選手として、彼らがいとも簡単にしているように見えることが、いかに複雑であるかを知りませんでした。私はいつかまた日本を訪れたいと思います。皆様が私のことを思い出してくれるといいなと思います。私は日本の大学を見学する計画も立てています。なぜならば私は電気関係のエンジニアになりたいからです。そのためには日本は最適な場所でしょう。私はまた、私達のこの旅を可能にしてくださったすべての方々に感謝申し上げます。私はこのたび生涯残る経験をしました。

◆“習志野キラット2008”のサンバパレードが7月27日(日)に開かれ、NIAも参加しました。参加20チームのなかでパフォーマンス賞を頂きました。

タスカルーサ市青少年訪問団に同行して

ホームステイ・通訳部会長 山口 大二郎



当協会は市の委託事業として学生12名随行員3名を6月12日より12日間お世話することになりました。タスカルーサ姉妹都市委員会専務理事リサ氏より60名の中から選ばれた学生の写真リストとエッセイが届くと、いよいよ準備委員会の作業は現実味が増してきました。

エッセイには参加目的、日本でしたいことなどが詳しく述べられています。日本には古来Modesty(謙遜)と云う美德(?)が有りますがいずれの学生も自己紹介欄では、学業の優秀さ、クラブ活動、地域ボランティアの実績、協調性のある性格など自分が選ばれるのが如何に相応しいか自信たっぷり述べられています。共通した目標は自分たちの知らない日本文化に触れたい、日本人の日常生活を体験したい、一生付き合える友人を見つけるなどです。部会としてはホストファミリーの募集、ホームステイの説明会、滞在期間にどれだけ日本を体验してもらえるか、どんな国際交流が出来るのかが課題になります。自信あふれるアメリカ人と付き合うには物静かなはにかみやでは通用しません。たとえ英語が上手なくとも臆することなくすうすうしくらいの積極さが必要です。

成田空港の出迎えでは手続きを終えて来た学生一人一人を名前で呼びかけ歓迎、まず親近感を持たせる事からはじめました。

初日はまず市の表敬訪問、市長の挨拶があり学生が自己紹介しホストファミリーも紹介されました。その後谷津干潟、リサイクルセンターへ、近代的なごみ焼却装置、再利用を見学し紙梳を体験。お昼はららぽーとで好みの食事を食べ、ショッピング。100円ショップは人気がありました。翌日の皇居内見学では予備知識としてアメリカのベストセラー「将軍」、ペリーの黒船来航などの話

から関心を引き出し、幕府、大名、天皇をわかりやすく説明しましたが果たしてどこまで関心を持って聞いてもらえたのかは疑問です。観光は丸の内界隈、旧GHQ本部、築地の魚市場、歌舞伎座、銀座4丁目を通り新橋駅へ。海の少ないアラバマ州では珍しいのではないかとお台場ウォーターフロントを入れました。「ゆりかもめ」に乗りレインボーブリッジを渡り巨大アミューズメント・エリアへ案内。ショッピングセンターで買い物を楽しみ、大観覧車に乗りご満悦の様子。一方アニメ・グループは宮崎駿の三鷹の森ジブリ美術館を見学し感激の様子でした。スポーツ交流、歓迎会では会員や関係者が多数参加し和やかな交流が出来ました。3日間の都会の喧騒を離れた富士吉田研修は雄大な自然の中での十分な気分転換が出来ました。習志野高校生8名と英語教師が参加し、残雪広がる富士山5合目、オルゴール館、忍野八海、山中湖遊覧などを楽しみました。

心配した雨季には珍しい程の天気に恵まれ大成功。夜にはバーベキュー・パーティー、キャンプファイアー、ゲームなど日米共同作業を通じ連帯感が生まれます。息抜きの翌日は阿武松相撲部屋の朝稽古見学、汗を飛び散らし巨体を激しくぶつけ合う様子には緊張感がみなぎります。アメリカン・フットボール選手の学生が飛び入り参加、なかなかの健闘振りに声援が飛んだ。外国人力士が増えたとは言え日本伝統の相撲に新たに魅力を感じたことでしょう。消防署ではコントロールルームで説明を受け、実際にはしご車に試乗、いささか興奮ぎみながら全員トライ。茶道教室は少しでも本式にと関係者の努力は大変なようでした。周到な準備のお蔭で全員が着物に着替え優雅な作法を実感できた様でした。一方別室では折り紙教室が開かれ自分たちで珍しい動物など複雑な作りのものを次々に折り上げ満足の様子でした。

毎朝のように元気に挨拶を交わしながら接する学生の顔はいつも生き生きと感じられました。

学生達のアンケートでは各行事についてかなりの満足度を示し、殆どの学生がホストファミリーは親切で素晴らしいと、ホームステイが如何に楽しかったかが窺えます。ホストファミリーの陰ながらの気配りと、ご苦労が有ったからだと感謝申し上げます。12名の学生を統率していただいた随行員皆さんお疲れ様でした。盛りだくさんの日程で疲れきみの学生達を空港で見送り何事もなく無事に過ごせた12日間を振り返りお互いの労をねぎらい帰宅の途に着きました。

タスカルーサ市青少年訪問団に随行して

広報部会長 谷川 博俊



6月20日(火曜日)午前8時45分からほぼ全日、習志野高校で生徒との交流をしました。

習志野高校に到着すると、応接室で本日の日程等オリエンテーションがあり、訪問団の生徒は幾分緊張気味でしたが、富士吉田市の宿泊研修に同行する生徒の紹介があると、会話が始まり、和気藹々の雰囲気になりました。訪問団一行は9時から始まる歓迎会に赴きました。

習志野高校生徒約1000名が教職員とともに吹奏楽団200名の奏でるアメリカ合衆国国歌の勇壮で重厚な響きに併せて手拍子と歓声で訪問団を迎える。体育館は笑顔が満ち、友好を願う心が一つになったようでした。

氏家校長先生が英語で歓迎の辞を述べた後、訪問団ひとり一人ひとりが挨拶をしました。「お早うございます。」

「ありがとうございます。どうも有り難う」などの日本語が入っていました。これは、校長先生が先のオリエンテーションの際に「覚えた日本語を遺って挨拶をお願いします」との依頼をしたからです。スピーチを聞いた校長先生は自校の生徒に「皆さんも習っている英語をこのように生きたことばとして遣えるように、努力をしてほしい」と一言お話をありました。吹奏楽部演奏と訪問団との交流は吹奏楽団員の踊りあり、「威風堂々」「オー・シャンゼリゼ」「バケーション」「天国と地獄」など多彩な演奏であり、さすがに全国高等学校吹奏楽コンクール最優秀校の常連校である見事な演奏でした。

1時間余りの第一体育館での全校生徒との交流会でしたが、あの音の響き、歓声、拍手は若人の心に刻まれたことだろうと思います。

6月20日(金曜日)午後から市立第七中学校に、リ

青少年訪問団に随行しました。今回は市立習志野高校と市立第七中学校の訪問の様子を書きます。

6月18日(火曜日)

サ・キーズさんとローレン・シムズさんの二名が訪問しました。当日の午後はホストファミリーの近く学校に訪問団員が分散して訪問することになっていましたので、二名でした。

5~6校時の授業参観と清掃活動や部活動などを参観させて頂きました。学校に到着後、校長室で2年



2組の女子から歓迎のことばがあり、小野・櫻井両先生から、学校紹介と本日の時程などの説明を受けているうちに5校時開始のチャイムが鳴り、1年3組英語の授業を見せて頂きました。大変和やかな場になったのは、お二人が教科書を読んで頂いたこと、新出英単語を用いて、生徒に簡単な英語の質問を出し、その応答が楽しく、英語が生きたことばとしての実感を生徒が持てたことだろうと思います。

6校時は2年2組の授業で生徒からお二人に英語で日本の文化・伝統・食物・習慣などを説明する場面が多くありました。「京都・東京」「うどん・ラーメン」などの説明を班員5~6名が分担して用紙に絵と英語で書き、それを読みながら、班員が分担箇所を幾分照れくさそうに説明しました。お二人もうなづき、班の説明が終わるごとに笑顔で拍手していました。

これには、生徒が発表項目を多岐にわたり調べ、整合性を持つまで、内容項目を精選し、更に発表項目を英語で説明できるよう英作文するという過程があった筈ですが、これを成功させた生徒の努力はきっと生きた英語を修得できた実感が湧いたように思います。お二人の訪問者が英語の教科書を朗読、一瞬の静寂、質問に応えた時の生徒の歓声。このことを生徒も訪問者も生涯忘れるこ



とはないと思います。ことばのキャッチボールは共生や協調の礎であることは確かだと思思います。いい波紋は年々広がって行きます。

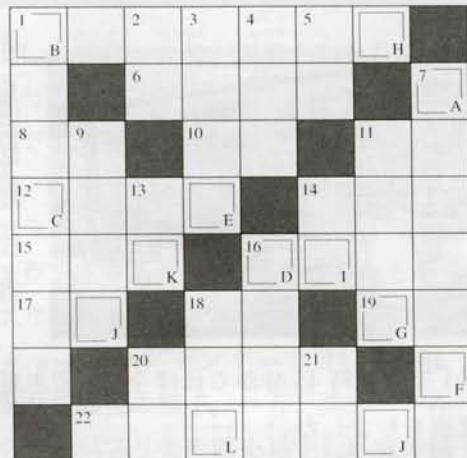
Let's チャレンジ／ザ・英文クロスワードパズル No.83／プレゼント付！

〈Across〉

- The _____ Games will be held this August in Beijing (Peking).
- Propensity, Tendency, Prejudice.
- For example
- North Riding
- To exist or live.
- To look at carefully so as to understand the meaning of (something written or printed).
- The third person singular of the present tense of have.
- Feeling unhappiness or grief.
- No longer possessed or retained
- Chemical symbol for Erbium
- For instance
- Early English
- The structure of twigs, grass, mud, etc..
- Toward or situated in the East.

〈Down〉

- Across the sea
- Year - book
- Your thoughts, or the part of your brain use for thinking and imaging things.
- Average or normal amount, degree, etc..
- The third person singular of the present tense of Be.
- Lying toward or situated in the west.
- Set of teethed wheels working together in a machine.
- The bottom support or part.
- Anno Domini (L. = in the year of our Lord)
- Home Office
- Number of names (of persons, items, things, etc..)
- Fellow of the entomological society.
- National Academy
- Topographical engineers



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

パズルを解いたあと、A-Lをそれぞれつなげて出来た言葉が正解です。(2 Words)。解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌への感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、Fax、Eメールで10月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、粗品を進呈いたします。

「NIAスクウェア」編集部まで。
たくさんの応募お待ちしております。

前回の解答

〈解答〉 OLYMPIC GAMES

	C	H	I	N	A	
O		O	C	T		Y
L	O	P	E		G	A
I	C	E		D	E	C
V	T		M	O	T	H
E		S	A	R		T
	M	E	D	A	L	

〈クロスワードパズル当選者〉

林 澄人さん 砂岡育子さん 美濃律子さん
岩間敏男さん 齊藤圭祐さん

◆ページの余白に小問題があります。
()の中に数字を入れ、合計した「数」を NIA 事務局にお送りください。

N.I.A スクエア・第 83 号

発行 2008年9月1日 / 発行責任者・山田大三

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者 谷川博俊

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 5-12-12

サンロード津田沼 4F

TEL/FAX 047-452-2850

<http://www1.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp

編集後記

●今回はタスカルーサ市青少年訪問団の来訪に伴い、習志野市においての様々な交流の様子を特集しました。多感な青少年が本市を訪れ、体験を通して学んだことが、今後の友好や協調にどのように関わっていくかを最大の関心事として編集しました。また、紙面に多くの写真を用い、具象的な描写と記述に工夫をしました。訪問団の若い力が国際交流体験を通じて確かな共生や友好が育つこと期待してやみません。●市民の方から寄せられました「スクウェア掲載の英文には訳文を併記してほしい」とのご要望にお応えしました。(編集部)